ふくしまスタディツアー2019～原発事故後を共に生きる～

企画趣旨

　東日本大震災から8年が経過し、復興庁の進捗報告では住まいとまちの復興、産業・生業の再生は9割以上の事業が完了している。また発災直後47万人に達した避難者数は、2019年6月現在約5.1万人となっている。

　そのような中、福島第一原発事故の被害の中心である福島県の避難者数は約4.3万人と全避難者の84％を占め、その避難者の多く(31,735人)は県外で避難生活をおくっている。また避難指示解除9地域における平均居住率は23.2%と低く(2019.04.12河北新報)、農業、漁業を中心に風評被害も続く。被災者の生活再建の見通しは立たず、復興にはまだ長い時間を要する。しかし、原発事故被災地の状況や避難者についてメディアが取り上げる機会は減り、国民の関心は低下し、原発事故そのものの風化が懸念される。

　このような背景を踏まえ、福島第一原発事故の被災地の「今」を知り、多様な被災者、避難者の「今」を聴き、原発事故後を共に生きる私たちは、いかにあるべきか考えることを目的にスタディツアーを実施する。

１．日程

　　事前学習　2019年10月2日（水）１８：００～１９：３０　＠人間科学研究科内

　　　　　　　2019年10月13日（日）１４：００～1６：００　＠中之島センター

　　現地訪問　2019年11月4日（祝）～6日（火）（宿泊場所は福島県いわき市内）

　　　　　　　＊６日（火）は９時２０分伊丹着で戻りますので、２限からの授業には間に合います。

２．内容

【事前学習】

　・福島第一原発事故の概要説明、参考図書の紹介など

　・広域避難者の語りを聴く会への参加（避難者のアクセス性を考慮して中之島センターで実施する）

【現地訪問】

　１日目　11日４日（祝）

・廃炉資料館見学（富岡町）

・被災者の「今」を聴く（富岡町の語り部の方に町内をご案内いただく）

２日目　11月5日（火）

　　・双葉町訪問（帰還困難区域の視察と自治体の取り組みを学ぶ）

　・広域避難後、生活内（いわき市）避難している避難者の「今」を聴く（予定）

　・地元支援団体（NPO法人みんぷく）の活動を学ぶ

　・全体ふりかえり

 　＊内容は変更される場合があります。ご了承ください。

３．募集対象・人数　　人間科学研究科院生　４人程度

４．募集期間　2019年９月６日（金）～９月２７日（金）１７：００

５．応募条件

　　　全行程（事前学習を含む）に参加し、志望動機（400～800文字程度）を募集期間内に提出すること。

なお、応募にあたって指導教員の許可を得てください。応募多数の場合は選抜します。

【問い合わせ・応募用紙提出先】

　　未来共創センター（人間科学研究科　東館105）：石塚裕子（y-ishizuka@hus.osaka-u.ac.jp）

　　応募用紙はメール又は未来共創センターに提出してください。

ふくしまスタディツアー2019　応募用紙

　私は「ふくしまスタディツアー」を申し込みます。

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（学年・所属） |  |
| 連絡先 | メールアドレスと携帯電話番号 |
| 志望動機 |  |
| 指導教員による承認（署名又は押印） | 上記の所属学生が「ふくしまスタディツアー2019」に参加することを許可します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　㊞ |